

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	一般財団法人松本市芸術文化振興財団	
施 設 名	まつもと市民芸術館	
助成対象活動名	公演事業	
内定額(総額)	28,009	(千円)
	公演事業	28,009 (千円)
	人材養成事業	0 (千円)
	普及啓発事業	0 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	TCアルププロジェクト Phase2・V Vol.13「じゃり」	2020年7月16日～18日 ※、 7月22日～26日※	出演：串田和美、近藤隼、武居卓、細川貴司、 下地尚子、草光純太、坂本慶介、深沢豊（以 上TCアルプ）、田村真央、毛利悟巳	目標値	1,008
		まつもと市民芸術館小ホール 上土劇場		実績値	538
2	そよ風と魔女たちとマ クベスと	2020年10月8日～11日 ※	脚色・演出・美術・照明・衣裳：串田和美 出演：草光純太、近藤隼、下地尚子、武居 卓、田村真央、深沢豊、細川貴司、毛利悟 巳、串田和美	目標値	1,008
		まつもと市民芸術館 実験劇場		実績値	455
3	冬のカーニバルシリー ズVol.12	2021年 2月17日～22日、 2月26日～3月2日※	脚本・演出・美術・出演：串田和美 出演：香寿たつき 秋本奈緒美 吉野圭吾 内田紳一郎 引間文佳 近藤隼 武居卓 細川貴司 下地尚子 深沢豊 草光純太 毛利悟巳 竹川絵美夏 演奏：Dr. kyOn (P) 塚本功 (G) 木村おうじ (Dr) 音楽：Dr. kyOn 照明：齋藤茂男 音響：井 上正弘 振付：山田うん ヘアメイク：野口 範子 演出助手：長町多寿子 舞台監督：福 澤諭志	目標値	1,633
		信毎メディアガーデン ホール、 東京芸術劇場 シアターウエスト		実績値	1,659

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>まつもと市民芸術館の令和2年度の重点的な取り組みと芸術監督の指針(E1)のもと、クリエイションを実施した。事業番号1『TCアルププロジェクト Phase2・Vol.3』:まつもと市民芸術館を拠点として活動するTCアルプの定期的な公演は、松本芸術文化振興基本方針2・分野方針Ⅲ(E2)にあるように文化の発信に必須である人材の養成と確保に寄与した。新型コロナウイルス禍での地域交流には、アルフレッド・ジャリという難しい題材への理解を深めるために若年層に人気の人狼ゲームをベースにしたオリジナルゲームを創り、Zoomで「ユビュ狼」として開催・配信。三密を避けるためにあけた客席に設置する「ペーパーピーポー(思い思いの絵を描いた段ボールの人型)」を一般にも広く募集した。コロナで劇場に来ることに躊躇のある観客に自分の分身を客席に置いてもらうというこの企画に松本市民はもちろん、日本全国各地の一般・アーティストからも応募があった。</p> <p>事業番号2『そよ風と魔女たちとマクベスと』:長野県の文化事業全体の底上げを図るため、2016年4月に設置された「長野県芸術監督団」(E3)は、2020年度で設置5周年を迎えた。その集大成として県全域を対象にした滞在制作型の演劇事業を企画し、県外公演も予定していたが、コロナの影響で断念。当初の演目を変更し、県内キャスト・スタッフを中心とし「マクベス」を題材に新作を上演した。</p> <p>事業番号3『冬のカーニバルシリーズ Vol.2』:本シリーズは、寒気で人通りの少なくなる時期こそ気軽に楽しめる作品を上演することで、観光シーズンの夏季のような活気を松本市の冬季に生み出してほしいという市民の要望に応えるべく松本市の芸術文化基本方針4・分野方針Ⅱ(E4)に基づき、始動した。公演は中心市街地に位置し、県民に開かれた公共空間を備えた施設である信毎メディアガーデン(信濃毎日新聞松本本社ビル内)で上演した。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>新型コロナの影響により県をまたぐ移動の制限や予防対策等があったため、県外からの来場者は少なく、地域への経済波及効果はあまり認められなかったが、多くのイベントの中止、商業施設の営業自粛により活況が途絶えた街中に、限定的にはあるが従前の賑わいを創出することができた。</p> <p>事業番号1『TCアルププロジェクト Phase2・Vol.3』: 新型コロナの影響による休館明け初の自主事業。懸念された集客は、50%と制限のある中で上土劇場では7割の集客、まつもと市民芸術館では9割以上の集客と盛況であった。(E5)串田演出作品で毎年行っている中学1,2年生を対象に実施している貸し切り公演、今年度は客席数の制限があるため中学1年生(88名)のみを対象とした。中学2年生やその保護者には特別価格(学生:1800円、保護者:3500円)で一般公演に案内した。中学生に継続して安価に演劇体験を提供できるのは本助成金あってこそである。</p> <p>事業番号2『そよ風と魔女たちとマクベスと』:長野県芸術監督団と松本市が連携した共同製作作品として、芸術監督・串田和美が手がける演劇作品を、松本市のみならず県内でツアー上演し、長野県全体の芸術文化の振興と活性を図るための事業として実施した。上田公演は中止となったが(詳細は有効性ページに記載)、松本公演は客席50%設定に集客97%、茅野公演は完売と盛況だった。</p> <p>事業番号3『冬のカーニバルシリーズ Vol.2』 松本市のメインストリートである本町通りにある信毎メディアガーデンという複合施設(E6)の場所の特徴もあり、日ごろお芝居に来ない一般のお客様も来場し、演劇、音楽を楽しんでもらえた。観客が気軽に足を運べるようなショー感覚の内容で若年層を含めた幅広い客層へ観劇機会を生み、次世代の観客育成へも繋げることができた。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

1、県内外での継続的な創造発信活動

令和2年度は『じゃり』上土劇場（松本市）、『そよ風と魔女たちとマクベスと』茅野市民館（茅野市）、『真冬のバーレスク』信毎メディアガーデン・東京芸術劇場（東京都）とコロナ禍にも関わらず、各地域や劇場で串田作品上演を行うことができた。客席数に制限があったものの、茅野公演・東京公演は盛況で入場率はほぼ100%であった。(E5) 地方の創造発信劇場としての存在感を示し、県内でも舞台芸術の発信地として広く認知されるべく、今後も継続的な上演を試みていきたい。

2、地産地消の創造発信事業

当館を拠点に活動を継続している TC アルプは応援してくれる住民も多く、芸術館のクリエイションを支える存在になりつつある。

定期的に行っている TC アルププロジェクトでは、新国立劇場芸術監督小川絵梨子氏を演出に招きクリエイションにより作品づくりに取り組み、関連企画として市民参加型リモートゲーム『ユビュ狼』をメンバーが中心となって開催し好評を得た。また、本年度は松本市だけでなく長野県事業にも関わったほか、メンバーは軽井沢で2人芝居や高知での1人芝居など独自の活動も展開した。そのうち一作品は3月に当館シアターパーク企画として公演開催された。近年は東京での知名度もあがり、シアタークーンや KAAT 神奈川芸術劇場プロデュースなど関東圏の大劇場での客演も増えてきている。

3、地域コミュニティと協働した事業展開による、地域活性化

本年度は新型コロナウイルス感染拡大が影響し当初の目標との変更が生じた。特に『そよ風と魔女たちとマクベスと』は関係者以外の立入禁止・稽古前の PCR 検査などあらゆる感染症対策を講じていたが、関係者に PCR 検査陽性者1名が出てしまい稽古が2週間停止。ツアー最初の地である上田公演が中止となってしまった。(E7) 全公演中止になってもおかしくない状況であったが、今までの当館のクリエイション事業や長野県事業団の経験、お互いのノウハウを共有することによって松本・茅野公演はなんとか実施することができた。全国的にも公演中止が相次いだ年であったが、結果的に当館の自主事業は全て実施。厳しい状況は今後数年続く可能性も高いが、最大限できうる努力をし事業を実施することによって、地域の活性化と共に文化芸術を途絶えさせることなく将来に繋げることが公共劇場として重要な役目だと考えている。

■当館以外での会場で上演をし、当館に関心を持つ観客の増加

想定外のコロナの影響により、新たな観客層を開拓する状況になく、アンケート項目の追加を断念し、安全に事業が遂行できることを第一目標とした。

■本団体に興味・関心を持って来場した観客層の増加

事業番号1『TCアルププロジェクト Phase2・Vol3 じゃり』アンケート結果/出演者に興味を持って来場した観客率88.9%（アンケート回答者18名）。(E8) 緊急事態宣言後初の自主事業であり、感染症対策のためアンケートを紙からWEBアンケートに変更したばかりのため回答率が低かった。しかし、当初の目標である出演者に興味を持って来場した観客率62%を超えることはできた。

■事業への協力飲食店の増加

コロナの感染防止対策により、観劇時のマスクの着用が必須となり、劇場内では会話も極力控えていただくほか、三密回避の各種対策をとることになったため、飲食店の出店も断念した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業番号1『TCアルプロジェクト Phase2・Vol.3 じゃり』:

コロナ対策として、会場の客席を半数以下にして、間隔を空けた状態での公演で行うことが義務付けられていたため、当初目標値としていた入場者数より減少した。

事業番号2『そよ風と魔女たちとマクベス』:

新型コロナによる移動制限もあり、県外からのキャスト参加や県外でのツアーが行えなくなった。そのため演目を変更。上田公演は中止（詳細は有効性ページに記載）になってしまった。各種制限が有る中ではあったが、入場者参加者数が97%と目標値を上回ったため、入場料収入は当初の目論見より約54万円増加した。

事業番号3『冬のカーニバルシリーズ Vol.2』

当初の入場者の目標値をおおよそ達成した。東京公演は緊急事態宣言下ではあったが、前売りでほぼ完売していたため、当日券の販売は行わなかった。コロナが理由であれば払い戻しも受けることにしていたが、1件も依頼はなかった。

県を超えた移動が制限されていたため、県外からの集客はほぼ見込めず、客席も50%の制限などが出たため、チケット収入は減少した。またPCR検査費用や感染症対策費用など予算を立てた段階では予想しなかった経費が発生した。稽古はシーンごとに時間差にするなど稽古場に滞在する人数を減らし、稽古場を常にZOOMで撮影してプランナーやオペレータに見てもらうことで県外からの移動回数をできる限り減らすことで移動費宿泊費の軽減に努めた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【視点1】

まつもと市民芸術館の文化拠点としての資源

(1) 芸術監督

クリエイションは芸術監督である串田和美の指針のもと行われている。串田は、自由劇場主宰、シアターコクーンの前代芸術監督の後、2003年以降松本で活動を続け、「信州まつもと大歌舞伎」では、市民キャストの起用、「空中キャバレー」では、市民協働、地域密着の作品を作り続けている。2016年からは、長野県芸術監督団（演劇）や信濃毎日新聞メディアガーデン企画プロデューサーも務め、市内にとどまらず、また官民を超えて活動。まつもと市民芸術館もその活動により2016年地域創造大賞を受賞した。

・串田和美受賞実績：2007年第14回読売演劇大賞最優秀演出賞受賞。08年紫綬褒章、13年に旭日小綬章。

15年シビウ・ウォーク・オブ・フェイム。(E9 串田和美プロフィール)

(2) 専属団体、提携団体

TCアルプ：松本に移住し、まつもと市民芸術館を拠点として活動している演劇集団。毎年1、2本彼らを中心としたTCアルププロジェクトを上演。串田はもとより白井晃、小川絵梨子、森新太郎など気鋭の演出家を招き、クリエイションを行っている。2018年には朝日新聞の「地域の劇場をたどって」にも取り上げられ、県内外からも上演のオファーがあり、知名度とともに松本発の文化発信を担っている。

まつもと市民芸術館ボランティアの会：自主事業のロビー運営は外部委託せず、ボランティアの会が行っている。ボランティアは現在86名。研修会開催のほか、職員とともに避難・消防訓練にも参加している。(E10) 本年は長野県内での感染警戒レベルが引き上がったことや緊急事態宣言があったこと、また会員の年齢層が高いということをもふまえて、公演スタッフとしての参加を遠慮していただいたが、劇場スケジュールの発送協力などで劇場を支えている。

(3) 創造活動に関する建物設備等

当館には主ホール、小ホール、そして1800人収容可能な主ホールの舞台上に「実験劇場」というもう一つの劇場がある。舞台の中の劇場という他に類を見ない空間である。「そよ風と魔女たちとマクベスと」はこの実験劇場で上演を実施した。

【視点2】

(1) 公演、人材養成、普及啓発の企画内容、芸術性

① 公演の企画内容、作品の芸術性の高さ、特色

「TCアルププロジェクト Phase 2・Vol 3 じゃり」：2015年上演の『ユビュ王』以来、小川絵梨子氏が不定期に行ってきたワークショップが新作として結実した。このプロジェクトでは新作の前には必ずワークショップを行い、複数年かけてクリエイションを行っている。

(2) 文化芸術情報の整理、蓄積、提供、発信

HPに過去公演をアーカイブ化している。フェイスブック、インスタグラムなども行っているが、年3回発行している広報誌 (E11) (各回7,000部発行) は単なる劇場の宣伝という枠を超えた文化情報誌として高い評価を得ている。その内容はWebにて電子版を閲覧できるようになっている。

新型コロナウイルス禍であり、当初予定していた全国から参加者を募って行うワークショップは開催が難しかった。その代わりに、長野県芸術監督団事業HP・Facebook・Twitter等での公演告知、インタビュー記事掲載 (串田和美、近藤隼 (出演者)、伊藤茶色 (スタッフ)、新聞記事 (信濃毎日新聞、MGプレス、市民タイムス)、

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

●人材

松本市 100%出資の一般財団法人松本市芸術文化振興財団が運営をしている。同財団は、芸術館のほかに 4 つの劇場・美術館を運営しているが、人事異動は過去 1 回のみである。労働契約法の改訂に伴い、雇止め法理が定められ、職員の長期的なビジョン形成とクオリティの向上のため、5 年以上勤続する嘱託職員を本人の承諾を得て、無期労働契約へと転化させている。そのため今後は財団内の異動も行われ、各館のスキルの向上が期待できる。現在の人員配置は、芸術監督 1 名、支配人 1 名、事務長 1 名、プロデューサー 1 名、施設管理 1 名、貸館 5 名、広報 1 名、票券 1 名、企画制作 4 名、舞台技術 7 名である。(E15 組織図)

職員のコンプライアンス、コスト意識の向上を図るため、各種研修を実施している。

臨時職員及び契約職員については、財団嘱託職員としての雇用転化を個人の能力や実績に応じて適宜行っている。

* ボランティア組織に関しては、創造性のページを参照のこと。

●財務

過去 3 年間は、安定して推移している。(E16 過去 3 年の推移・令和二年度は現在決算作業中) 市から 1 億円の事業費と貸館収入と助成金で事業を行っている。

大規模な興行作品は、地域のプロモーター、メディアと共催する。共催の条件として一定比率の座席、チケットを確保し販売することで、手数料と会員へのサービスとし、収入確保に努めている。

●ネットワーク

・ 劇場音楽堂等の連絡協議会などに参加し、各館の制作状況を把握し、ネットワーク構築に努めている。
・ 信州大学人文学部とは定期的に連携事業を行っている。2019 年度は 10 月にインドネシア舞踊のワークショップを行った。2020 年度は身体表現のワークショップを行う予定ではあったが、コロナ対策のため芸術館内のスタジオなどでは行わず、リモートでの開催となった。

また、毎年、松本秀峰中等教育学校の新生を串田作品に招待している。演劇を鑑賞し、ふれることで感性が磨かれ創造性溢れる人格形成につながる効果を期待できるためである。才教学園へも定期的に演劇のアウトリーチをおこなっている。いずれも単発的な取り組みであるので、今後は回数を増やし、連携を深めていく必要があると考えている。

●施設

開館後 15 年を経て、松本市から既存の管理費とは別途予算を計上し、平成 30 年度から今年度の二月まで主ホール・小ホールの長期的な大規模改修工事を実施した。(E17) また、舞台機構（年四回）、照明機器（年三回）、音響機器（年二回）の定期メンテナンスも実施している。